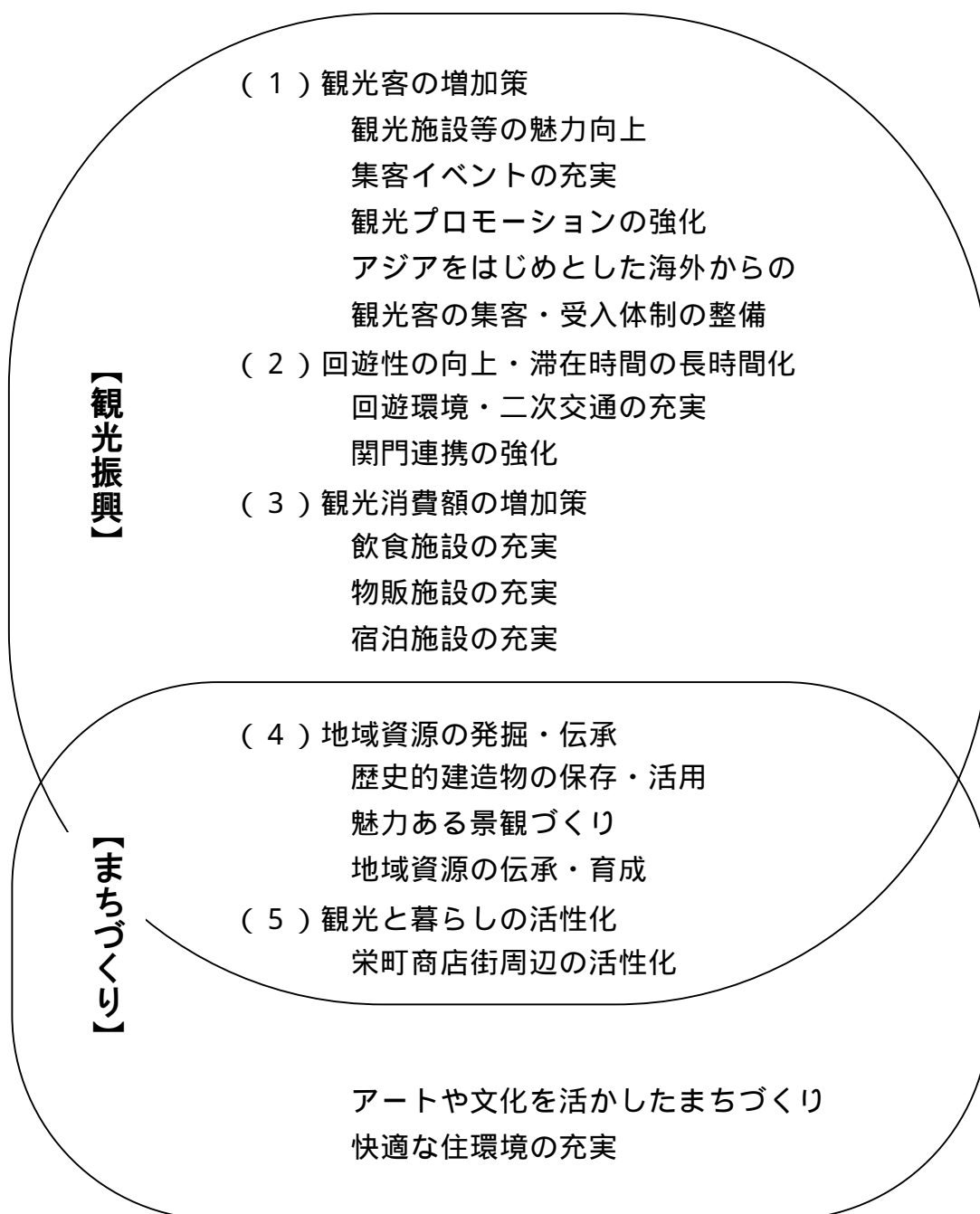


## 施策の展開

### 1 戦略

門司港レトロの活性化に向けた5つの課題に対応するため「観光客の増加策」「回遊性の向上・滞在時間の長時間化」「観光消費額の増加策」「地域資源の発掘・伝承」「観光と暮らしの活性化」に取り組む。

具体的な施策については、観光振興・まちづくり双方の視点から、下記の15の戦略に基づき展開していく。



## 2 具体的な施策

### (1) 観光客の増加策

#### 観光施設等の魅力向上

##### 主な目標

門司港レトロでは、これまで旧門司三井倶楽部や関門海峡ミュージアム等、数々の観光施設を整備してきた。

今後、これらの観光施設を設置当初の状態に留めるのではなく、施設の魅力をさらに高め保持していくことは、観光客を増加させ地域の活性化を図るうえで、極めて重要な前提条件となることは言うまでもない。

そこで、各施設における展示の内容や活用方法等を見直すとともに、展示スペースの一体的な活用や施設運営の効率化、効果的なPRなどに取り組む。

#### <具体的な施策>

##### 1) 観光施設の展示内容等の見直し

観光施設を訪れた観光客が満足し、リピーターとして再び訪れていただくため、関門海峡ミュージアムや旧門司三井倶楽部などの観光施設の展示内容等について、必要に応じた見直しを行う。

##### 2) 観光地トイレの充実

観光客の増加に対応し、サービスの向上を図るため、トイレを増設するとともに、施設の改修にあわせ、多目的トイレの整備や洋式化に努める。

##### 3) 観光施設の展示スペース等の一体的な活用

レトロ地区に点在している観光施設の展示スペース等を一体的に活用することにより、面的な回遊性の向上と、より充実した企画展等の開催が可能となる仕組みを構築する。

##### 4) 施設の運営の効率化

施設利用者へのサービス向上を図るため、民間事業者の発想を取り入れた創意工夫、ノウハウを活用しながら、民間活力の導入により、施設運営の効率化や効果的なPRを進める。

## 5) 夜間景観の向上

ナイトファンタジーや冬場のイルミネーションについて、ライトアップの手法やプログラム等の見直しを行うとともに、夜景の見所を定め、夜間景観の魅力を積極的にPRする。また、夜間散策のための照明灯の整備を行う。

## 6) 多目的広場隣接地の活用の検討

多目的広場に隣接する未活用地については、門司港レトロ観光列車の駅前に位置し、利便性が良いため、民間活力の導入を視野に入れながら、商業施設、ホール、宿泊施設等の立地の可能性を検討する。

### 集客イベントの充実

#### 主な目標

門司港レトロに集客を図るためには、門司港ならではの歴史的建造物や関門海峡、景観などの魅力をアピールするとともに、受地対策として魅力ある集客イベントを効果的に行うことが重要である。

そこで、門司港の歴史や文化、景観、ノスタルジックな雰囲気などを活かし、この街ならではのイベントを開催することにより、観光客数の増加を図るとともに、門司港レトロ地区の全国ブランド化を目指す。

#### <具体的な施策>

### 1) 特色あるイベントの展開

関門海峡は日本屈指のすばらしい景観を誇り、行き交う船舶を目の辺りにすることができる。この「海峡」や「美しい夕日」「夜景」、さらには、門司港の歴史や地形的な特色を活かしたイベントを開催する。

### 2) Jazz を中心とした音楽イベントの開催

上海で盛んであった「上海バンスキング」のジャズは、大正時代より大陸航路が栄えていた門司港に渡り、数多くのジャズが演奏された。この歴史を踏まえ、門司港をJazzが聴ける懐かしい街として、Jazzを中心とした音楽イベントを開催する。

### 3) 民間主体のイベント体制づくり

イベントを成功させるためには、観光客はもちろん、地域が一体となって参加し、ともに楽しめるような雰囲気が必要である。

そこでまちづくり団体や観光事業者等の民間が、連携して主体的にイベントを企画・実施できる体制づくりを行う。

#### 4) アートギャラリーの設置やアートを切り口としたイベント等の支援

質の高い作品を展示・鑑賞する本格的なアートギャラリーの設置を検討する。また、門司港におけるアートの取り組みを、門司港レトロの観光素材のひとつとして位置づけ、門司港アート村等が企画、実施する、アートやデザインに関連するイベントやコンベンションを積極的に支援する。

#### 観光プロモーションの強化

##### 主な目標

門司港レトロへの広域的な集客を行うため、これまで関門海峡とあわせた観光プロモーション等により、全国的なブランド化を図り知名度を高めてきたところである。

今後の観光客をさらに増やすためには、観光プロモーションをこれまで以上に強化し、戦略的なPR活動や全国の旅行業者等に対する送客に向けた取り組みを行っていく。

#### <具体的な施策>

##### 1) マスメディアへの働きかけ

全国のテレビやラジオ、雑誌、新聞などのマスメディアに、門司港レトロの話題が、番組や記事として取り上げられるように積極的に働きかける。

##### 2) 情報ネットワークの活用

ブログやウェブサイト、携帯端末等幅広い情報ネットワークを活用し、門司港レトロに関する情報を発信する。

##### 3) 地域別、交通手段別のキャンペーンの実施

門司港レトロの魅力を効果的にアピールするため、大都市圏や近隣都市等、観光客の出発地を考慮するとともに、JRやバスなど、交通手段にも対応した戦略的なキャンペーンを実施する。

##### 4) 旅行商品の商談会の開催

門司港レトロへの集客には、門司港レトロを組み込んだ旅行商品の造成が必要である。そのため、全国各地の旅行エージェントと門司港レトロ地区の観光事業者が、直接、商談を行える商談会等を開催する。

## アジアをはじめとした海外からの観光客の集客・受入体制の整備

### 主な目標

昨今、東アジアを中心に、外国からの観光客が増加している。門司港レトロにおいても、日韓フェリーの就航等を契機に、今後、韓国人など東アジア諸国をはじめとする海外からの観光客の増加が見込まれる。

そこで、外国人観光客が快適にまち歩きができる環境を整えるとともに、門司港レトロへのさらなる集客を図っていく。

### < 具体的な施策 >

#### 1) 外国人のニーズに対応した観光モデルコースの設定

外国人観光客に人気のある「歴史スポット」や「グルメ」「体験型メニュー」等を盛り込んだ、門司港レトロのモデルルートを設定する。

#### 2) 案内板やサイン等の設置や観光ガイドの配置

観光案内板やマップ、パンフレット等の多言語対応や、各種サインのピクト化等を進めるとともに、関係機関と協力して、外国語に対応可能な通訳ガイドの育成や組織化を行う。

#### 3) 外国人観光客に対応した施設の充実

外国人観光客のため、外国人が安心して利用できる観光施設や商店、宿泊施設等の充実を図るとともに、両替所や海外通貨で買い物ができる店舗の設置を図る。

#### 4) 旅行商品造成の働きかけとプロモートの実施

門司港レトロと外国人観光客に人気の高い近隣の観光地をセットにした旅行商品の造成を、国内外の旅行エージェントに働きかけるとともに、外国人観光客の増加に向けたプロモートを国内外で実施する。

#### 5) 旅客航路誘致の促進

日韓フェリー - の就航を契機に、国際港として東アジアを中心とした海外からの旅客航路を誘致する。

## (2) 回遊性の向上・滞在時間の長時間化

### 回遊環境・二次交通の充実

#### 回遊環境の整備・充実

##### 主な目標

観光施設が集中する第一船だまり周辺だけを観光して帰る観光客も多いが、懐かしい路地が残る清滝地区や、かつて九州一の繁栄を誇った栄町・商店街地区、海峡の雄大な景観を楽しめる和布刈地区などにも足を伸ばすことにより、門司港レトロの魅力は満喫できる。

そこで、門司港レトロにある各地区を、楽しく快適に回遊できる環境づくりを進めることにより、滞在の長時間化を図っていく。

#### <具体的な施策>

##### 1) 街歩きしたい環境づくり

域内のモデルルートを設定して案内サインや舗装等で明示したり、木陰やベンチなどを整備する。また、主要な通りに愛称をつけたり、周遊ルート上へ魅力ある店舗を誘致することにより、観光客が安心して街歩きを楽しめる環境をつくる。

また、快適な歩行空間を確保するため、船溜踏切（海峡プラザ東側）の歩道拡幅やレトロプロムナードの再整備を検討する。

##### 2) 観光案内板等の設置

観光客が集中する駅や駐車場などに、イベント情報やグルメ情報などがわかる観光案内板等を整備する。

##### 3) 旧関門連絡船地下通路の再整備の検討

門司港が名実ともに九州の玄関口だった時代の土木遺産ともいえる旧関門連絡船地下通路を再整備し、門司港駅とマリンゲートもじや西海岸地区とのアクセスルートとして活用することを検討する。

##### 4) 西海岸地区への新たな魅力施設の設置

西海岸地区の賑わいづくりのため、旧大連航路上屋の活用を図る。また、ファミリーで楽しめる遊具の設置を検討する。

#### 5) 西海岸地区から清滝方面へのアクセス向上

旧大連航路上屋の活用にあわせて、清滝跨線橋方面へのアクセス向上を図る。

同時に、清滝跨線橋東側の眺望が良い場所に、門司港駅や関門橋を一望できるミニ展望施設を整備する。

#### 6) 鉄道記念館への歩行者アクセスの改善

門司港レトロ観光列車の事業化にあわせ、JR門司港駅から観光列車の駅付近を經由して九州鉄道記念館までの歩行者用通路を新たに整備し、鉄道記念館への歩行者アクセスを向上させる。

#### 7) 商店街地区への回遊性の向上

栄町商店街や小原市場等に団体バスの観光客が立ち寄りやすくするための取り組みを支援するとともに、店舗めぐりを促進するため、域内の商店等で使用できるクーポン等の発行と観光客への販売を働きかける。

また、商店街地区への賑わいづくりのため、商店街や老松公園などで開催されるイベントを支援する。

#### 8) 第二船だまり方面への散策道の整備

散策道として、レトロ駐車場～労災病院西側～第二船だまりを結ぶプロムナードの整備を検討する。

#### 9) 新浜地区の再整備の検討

レトロ地区に近接する新浜地区では、従前から飼肥料を取り扱う港湾荷役が行われているが、近年はレトロ地区の賑わいの拡大に伴い、地区内での土地利用の不整合が顕在化してきた。そのため、港湾活動に支障のない範囲において、レトロ地区の魅力を高めるため、民間の空き倉庫等を活用した商業機能の導入やイベントスペースとしての市民への開放などを検討する。

#### 10) ノーフォーク広場の充実・拡大

和布刈地区の玄関口に位置するノーフォーク広場について、より親水性の高い公園とするために充実・拡大を検討する。

#### 11) 和布刈地区の魅力向上

和布刈地区における飲食・物販や宿泊温泉施設など民間活力を活かした観光施設の整備を推進する。また、和布刈公園は、関門海峡の歴史や眺望を活かした公園として機能の充実を図る。

#### 12) 和布刈地区の回遊性の向上

和布刈公園を訪れる観光客の回遊性を高めるため、観潮遊歩道やサイクリングロード、展望広場等の整備を行う。

門司港レトロ観光列車の運行により、レンタサイクルのワンウェイ需要に対応するため、和布刈地区へのサイクリングターミナルの設置を支援する。

#### 13) 和布刈塩水プールの活用

和布刈塩水プールは、夏季(7・8月)のみの供用となっているため、春や秋の行楽シーズンに、子供向けの水遊び施設やボートやカヌーの体験ができる施設としての活用を検討する。

#### 14) レールパーク構想の推進

門司港レトロ観光列車の終着駅となる和布刈公園駅周辺の魅力を高めるため、観光列車が走らない部分のレールを活用し、鉄道車両の体験運転イベントや手こぎトロッコなどで遊べる「レールパーク」構想を推進する。

#### 15) 展望台等からの眺望の確保

魅力ある関門海峡の景観が楽しめるよう、展望台やビュースポット周辺において、眺望の確保を図る。



## 二次交通・駐車場の充実

### 主な目標

観光客が、駐車場や駅、バス停、港などを起点として、様々な観光スポットや店舗を巡りやすくするため、二次交通の充実に取り組んでいく。

また、自動車で訪れる観光客のために、駐車場機能の充実が求められることはもちろんであるが、門司港レトロに、よりゆっくりと滞在してもらうためには、利用しやすい駐車料金等のシステムの検討を進めていく。

### <具体的な施策>

#### 1) 門司港レトロ観光列車の運行

門司港地区と和布刈地区とを結ぶ臨港貨物線を活用し、関門海峡の景観や風情を満喫できる観光トロッコ列車を運行する。

なお、乗客には、車内における観光案内やグッズ販売など、観光に特化した列車ならではのサービスを提供する。

さらに、観光列車からの車窓景観の向上を図るため、沿線の企業や地域の方々の協力を得ながら、住民参加型の景観づくりを進める。

#### 2) 域内巡回バス、水上バスなどの導入を検討

二次交通手段として、民間事業者と連携し、駅や駐車場と主要観光地や商店街地区等とを結ぶ巡回バスや、観光列車の終着駅を基点とした和布刈地区周遊バス、門司港と和布刈地区との間の水上バスなどの運行を検討する。

#### 3) 駐車場の料金体系等の見直し

観光エリアの面的拡大に伴い、観光客の滞在の長時間化を促すために、駐車場の料金を時間制から定額制にするなど、料金体系等の見直しを検討する。

#### 4) 商店街地区へ観光バスが立ち寄れる環境の整備

栄町商店街や小原市場等へ、団体バスの観光客が立ち寄りやすくするための取り組みを支援する（一時駐車スペースの設置など）。

## 関門連携の強化

### 主な目標

門司港から遠く離れた地域に住む観光客にとって、門司港レトロ地区と関門海峡を挟んで近接している下関地域は、関門一体として捉えられており、観光するにあたっては両地域の回遊を考える傾向にある。

門司港レトロを全国から広く集客を図るため、さらに質の高い観光地として成長させるとともに、関門海峡を挟んだ関門エリアをセットにした地域のブランド化に向けた取り組みを行う。

### < 具体的な施策 >

#### 1) 関門をセットにした観光ルートの充実

壇ノ浦古戦場や赤間神宮、唐戸市場など下関市側の魅力的なスポットを結び観光ルートを充実するとともに、世界でも数少ない海底人道トンネルである関門人道トンネルを、魅力ある施設となるよう、関係機関に働きかける。

#### 2) 関門地区の周遊乗車船券の発売

関門地区の回遊性を高めるため、門司港レトロ観光列車と関門連絡船、下関側の交通機関との共通乗車券の発売等を働きかける。

#### 3) 下関市とのキャンペーン等の共同実施

北九州市・下関市・山口県で構成する関門海峡観光推進協議会を中心に、旅行エージェントに対して関門海峡ブランドによる旅行商品の造成を働きかけるとともに、日本各地で観光キャンペーンを行う。

#### 4) 民間による交流イベントの促進や共同事業の支援

関門両エリアの住民が、対岸の施設等を相互に訪問し、交流することができるイベントを促進するとともに、関門両エリアの企業や団体が共同で取り組む事業を支援する。

### (3) 観光消費額の増加策

#### 飲食施設の充実

##### 主な目標

「食」は観光の大きな楽しみのひとつであり、重要な観光資源に位置づけられる。

門司港には、焼きカレーやハヤシライスに代表される洋食文化をはじめ、関門海峡の味覚として全国的に有名なふぐや、関門海峡たこ、バナナの叩き売り発祥の地にちなんだバナナ料理など、多くのグルメがある。

これらの「食」の魅力を発信するため、門司港ならではのグルメを開発、支援するとともに、直販施設の設置や魅力ある店舗を誘致するなど、非日常観光客だけでなく、日常観光客や門司港ファンの増を図る。

#### <具体的な施策>

##### 1) 門司港ならではのグルメPRとイベント等による情報発信

焼きカレー、ハヤシライスなど門司港の風情にあったグルメのPRを行うとともに、「バナナフェア」「ふぐフェア」などのキャンペーン実施や、食に関するイベント参加、マスコミや旅行エージェント等への働きかけを通じて、広く「食」の情報を発信する。

##### 2) 地場産品直販施設の設置

観光列車の沿線等、門司港レトロ地区に、関門の海の幸などの新鮮な地場産の食材を提供する直販施設の設置を働きかける。

##### 3) 新たな個性ある飲食店舗の誘致

商店街や市場の空き店舗や、地域内に点在する空き倉庫などを活用した、チャレンジショップの仕組みを検討するとともに、新たな個性ある飲食店舗の誘致を働きかける。

##### 4) 夜の賑わいづくり

関門海峡の夜景やナイトファンタジーを目的に足を運ぶ若い人たちが、夜間に立ち寄れるカフェやバーなどの飲食店舗の充実を図ることにより、夜間の賑わいづくりを進める。

## 物販施設の充実

### 主な目標

観光には、土産品等を選んで買う楽しみがある。観光客に購買してもらい取り組みを進めることは、地域の経済活性化を図るうえで必要なことであることは言うまでもない。

そのため、門司港レトロにおいても、土産品等を販売する物販施設の充実を図るとともに、個性的な雑貨やファッションの店舗を開業しやすい環境づくりなどにも取り組む。

### <具体的な施策>

#### 1) 新たな土産品の開発・研究

門司港で活動する芸術家が創作する門司港アートブランド「アルテジオ」など、門司港ならではの風土や素材を活かした新たな土産品の研究・開発等の取り組みを支援する。

#### 2) 新浜地区などへの商業機能等の導入（再掲）

新浜地区の民間空き倉庫において、既存の港湾荷役に支障のない形で、例えば、個性的で魅力の高い雑貨やファッションなどの店舗を誘致するなど、商業機能の導入を検討する。

#### 3) 店舗物件情報の収集・発信、新規店舗の誘致

門司港地区における空き店舗や空地などの不動産物件について、民間を中心とした情報の収集や発信等の取り組みに対する支援を行うとともに、新たな店舗の誘致を積極的に行う。

## 宿泊施設の充実

### 主な目標

観光消費額の増加を図るためには、門司港レトロへの宿泊客を増やすことにより、滞在時間を長時間化させることが効果的である。

そこで、宿泊施設の受け入れ能力を向上させるとともに、宿泊に関する旅行者の多様なニーズに対応した取り組みを進める。

### < 具体的な施策 >

#### 1) 都市型ホテルの誘致

門司港レトロでは、旅行代理店が商品造成しやすい都市型ホテルが少なく、大量の集客が難しい状況にある。今後は、周辺環境と調和をとりながら、民間によるホテル立地が促進されるよう、臨海部の遊休地等への誘致を行う。

#### 2) 小規模宿泊施設の活性化

きめ細やかなサービスを売り物にしている旅館や民宿などの小規模宿泊施設について、同業者同士での情報交換の促進を図るとともに、宿泊予約のオンライン化など活性化に向けた取り組みを支援する。

#### 3) 外国人観光客の受入に対応した宿泊施設の充実

外国人観光客の満足度を高めるためには、外国の文化を理解し、おもてなしの心で対応することが重要である。このため、外国人が利用しやすいサインや利用案内の充実など、宿泊施設の利便性の向上に向けた取り組みを支援する。

## (4) 地域資源の発掘・伝承

### 歴史的建造物の保存・活用

#### 主な目標

門司港レトロでは、明治～昭和初期につくられた歴史的な建造物の保存が進められ、観光の目玉として活用されてきた。

しかし、老朽化の進行や利用度の低下により、解体される建物等も増えている。

門司港に残された歴史的建造物を、貴重な地域資源と位置づけ、街全体で知恵を出し合い、単に保存だけでなく利活用を推進する。

#### <具体的な施策>

##### 1) 旧 JR 九州本社ビルの活用

門司港駅前に立地する旧 JR 九州本社ビルに、ビジターセンターをはじめとするにぎわいづくり機能を導入し、新たな魅力ある観光拠点として保存・活用する。

##### 2) 旧大連航路上屋の活用

西海岸地区のにぎわい拠点として、関門海峡ミュージアムとともに、旧大連航路上屋を位置づけ、保存・活用を行う。活用については、休憩・展望機能を基本としながら、利用方策を検討する。

##### 3) 歴史的な木造建築物の保存・活用の検討

三宜楼など、昭和初期～中期に建築された多くの木造建築物の、老朽化が進んでいる。これらの建築物の保存や利活用のあり方や支援策等について検討する。

##### 4) 食糧倉庫の保存・活用の検討

食糧倉庫は、そのスケールの大きさだけでなく、デザイン等の独自性の面からも評価が高いことから、周辺のインフラ整備も含め、望ましい保存・活用のあり方を検討する。

##### 5) アートを体験できる空き倉庫等の施設の活用

アトリエや音楽練習場などの活動の場として、あるいはアート制作などを気軽に体験できる場として、空き倉庫等の既存施設を安価に活用できる仕組みを検討する。

## 6) 門司港独自の認定システムの検討

保存が求められる歴史的建造物について、門司港独自に認定するシステムを検討する。

## 7) 歴史的建造物の所有者等への支援

歴史的建造物の保存・活用について、地域をあげて取り組むとの考えから、門司港まちなみづくり協議会等の地域団体に対し、助言等の支援を行うとともに、国の制度の活用などを通して、歴史的建造物の所有者等に対し、建物の保存・活用を支援するシステムを検討する。

## 8) 歴史的建造物の活用を推進する仕組みの検討

活用度の低い建物の所有者等に対し、地域で知恵を出し合って活用策を提案したり、入居を希望する事業者との橋渡しを行ったりするシステムを検討する。

### 魅力ある景観づくり

#### 主な目標

関門海峡をはじめとする美しい自然景観や歴史的な街並み、港町の風景など、景観のすばらしさは門司港の最大の魅力のひとつと言える。

門司港レトロの住みよいまちづくり及び活力の源となる、門司港の美しい自然や街並みの景観を守り、育てていくことが不可欠との考えから、門司港まちなみづくり協議会等の地域団体と連携しながら、景観づくりの計画やルールづくり、及びその実現に向けた活動を推進し、市民の財産である景観を後世に継承する。

### <具体的な施策>

#### 1) 景観法の活用による良好な景観形成の誘導

下関市と共同で制定した関門景観条例の運用とともに、景観法に基づく景観計画により、門司港地区を景観重点整備地区に指定し、土地・建物の所有者及び地元まちづくり団体等の協力を得ながら、さらなる向上を目指し、歴史や風土に根ざした良好な街並みの景観形成を推進する。

また、今後地域と協議を進め、対象区域や基準等必要な制度の拡充・強化を検討する。

#### 2) 美化運動の実施

門司を美しくする会など、観光客を受け入れるための美化運動を実施している団体の活動をサポートするとともに、住民団体や観光事業者等による美化活動を推進する。

### 3) 景観保全のための啓発活動

門司港ならではの景観や風情を守るために、通り沿いになど人目につく場所に景観を阻害するものを置かないようにする啓発活動を、住民や観光事業者等と共同で実施する。

### 4) 街並みの保全を支援する仕組みの検討

国の制度等の活用を通して、建物の所有者等に対し、街並みの保全を目的としたファサード改修等を支援するシステムを検討する。

### 5) 電線類の地中化

本州からの玄関口となる国道2号及び3号(老松公園付近)などにおいて、電線類の地中化を行い、美しいまちなみ形成を図る。

## 地域資源の伝承・育成

### 主な目標

門司港には、港町としての歴史があり、往時の生活を思わせる懐かしい町並みや建物があり、観光素材として十分通用する、まつりやイベントなど、様々な地域資源がある。

これらの地域資源の魅力をさらに高め、後世にわたって持続させていくためには、この地域に暮らす住民が誇りを持ち、容易にまちづくりへ参加できるようなシステムが必要である。

そこで、地域資源を伝承するため、将来にわたってまちづくりを担う人材の継続的な育成等に取り組む。

## <具体的な施策>

### 1) イベントへの参画等による住民意識の醸成や子供たちへの働きかけ

祭りやイベントへの参画を通じて、多くの住民に門司港の歴史や文化を体感してもらい、住民意識や地域愛の醸成を図る。また、幼稚園・保育所、小学校などと連携し、子供のころから門司港を知り、好きになる仕組みをつくる。

### 2) 住民を対象とした観光施設や歴史等を理解するセミナーの開催

住民に、観光施設の内容や魅力を正しく理解してもらうための仕組みづくりを進めるとともに、住民がすすんで観光客を案内できるような、門司港の歴史や施設等に関するセミナー(勉強会)を開催する。



### 3) 住民のボランティア活動参加の促進とホスピタリティの推進

希望する住民が、ボランティアとして観光事業に携わることができる仕組みを構築するとともに、ホスピタリティの向上を目指して、観光事業者や住民を対象とした啓発活動を行い、優れた個人や団体を表彰する仕組みづくりを行う。

### 4) 門司港の最新情報の伝達や意見収集の仕組みづくり

門司港の最新情報（イベント、店舗情報など）を住民や観光事業者に周知するシステムづくりを行うとともに、門司港を訪れたお客様の声（評価や苦情）を行政や住民、観光事業者等にフィードバックさせるシステムづくりを進める。

また、住民や観光事業者等が、まちづくりや観光振興に関する意見を届けられるシステムづくりを検討する。

### 5) 新たな地域資源(人・モノ)の発掘と門司港の歴史資料館の設置

歴史に埋もれてしまい、光が十分にあたらず忘れ去られようとしている地域資源の発掘を積極的に進めるとともに、門司港の歴史等をわかりやすく学べる資料館の設置を検討する。

## (5) 観光と暮らしの活性化

### 栄町商店街周辺の活性化

#### 主な目標

門司港レトロの観光振興を進めるためには、レトロ地区に隣接し、昭和時代の雰囲気が多く残る栄町・商店街周辺との回遊性を高め、商店街における住民と観光客との交流を促進する必要がある。

そこで、商店街周辺の生活感溢れる魅力を高め、情報発信することで、栄町商店街周辺地域の活性化を図る。

#### < 具体的な施策 >

##### 1) 商店街における個性ある商品の開発や多彩なイベントの実施

観光客を商店街に引きつけるため、店舗ごとに「舶来の一品」「歴史の一品」「海峡の一品」など、話題性豊かな商品を扱う取り組みを進める。

また、夜市やワゴンセールなど、商店街を訪れる方々をおもてなしの心で迎える多彩なイベントの実施など、観光客獲得に向けた取り組みを支援する。

##### 2) 店主等を対象としたセミナー等の開催

多くの観光客を受け入れる開かれた商店街とするためには、おもてなしの心の共有や商品や店舗の魅力向上などの取り組みが不可欠である。そのため、店主等を対象に「魅力ある店舗づくり」、「おもてなしの心づくり」等をテーマとしたセミナーなどを開催する。

##### 3) 空き店舗情報の収集と観光客向け店舗の誘致

空き店舗や空地などの不動産物件について、情報の収集や発信等の取り組みを支援するとともに、商店街のエリア内に、茶店、土産品店、雑貨店、レトロな玩具店など、観光客も気軽に立ち寄られる店舗を誘致する。

##### 4) 商店街地区への回遊性向上策の実施

店舗めぐりを促進するため、焼きカレーのスタンプラリーや路地裏散策の実施、域内の商店等で使用できるクーポンの発行等を働きかける。

また、商店街地区とレトロ地区の中間に位置する鎮西橋公園は、その玄関口に相応しい公園として再整備する。住宅地に近い老松公園については、レトロ地区との交流イベント開催などを視野に入れ、レトロ地区の整備の進捗をみて再整備する。

## 5) 観光客に合わせた営業時間に対する取り組み支援

多くの観光客が訪れる日曜日や祝日に開店する店舗を増やすとともに、営業時間の延長など観光客の滞在時間に合わせた取り組みを支援する。

アートや文化を活かしたまちづくり

### 主な目標

門司港の持つ優れた景観や古い街並み、港町の風情は、アートなどの創作活動の場として、アーティストに極めて高いポテンシャルを与えている。

また、それらの活動を通じ、芸術家が集い、作品を鑑賞する来訪者によるにぎわいが生まれることが期待できる。

そこで、門司港ならではの、アートや文化を生かしたまちづくりを推進する。

### <具体的な施策>

#### 1) アートギャラリーの設置やアートを切り口としたイベント等の支援（再掲）

質の高い作品を展示・鑑賞する本格的なアートギャラリーの設置を検討する。

また、門司港におけるアートの取り組みを、門司港レトロの観光素材のひとつとして位置づけ、門司港アート村等が企画、実施する、アートやデザインに関連するイベントやコンベンションを積極的に支援する。

#### 2) アートや文化に関する創造や学びの場の設定

門司港レトロには、往時の歴史的建造物が存在しており、これまで保存、活用を図ってきた。

そのため、デザイン・建築など、門司港レトロのコンセプトにあった分野の創造や学びの場をつくるなど、交流人口を増加させる。

#### 3) アートを体験できる空き倉庫等の施設の活用（再掲）

アトリエや音楽練習場などの活動の場として、あるいはアート製作などを気軽に体験できる場として、空き倉庫等の既存施設を安価に活用できる仕組みを検討する。

#### 4) アート作品をモチーフとしたブランド商品の開発

門司港アート村のブランドである、大正から昭和初期に脚光を浴びたアール・デコをコンセプトにした「アルテジオ」等、門司港オリジナルのブランド商品について、開発や販売を支援する。

## 快適な住環境の充実

### 【主な目標】

門司港は観光地としてだけでなく、居住地としても高いポテンシャルをもっている。

門司港の活性化のためには、定住人口の底上げが必要であるとの観点から、住環境のさらなる向上や、門司港に住みたいと思う人の受け入れ態勢の充実などを景観に配慮しつつ、積極的に取り組んでいく。

### < 具体的な施策 >

#### 1) まちなか居住の推進

中心市街地を活性化するため、栄町商店街周辺の老朽建物があるエリアを住宅地として更新するなど、まちなか居住を推進する。

#### 2) 臨海部へ景観に配慮した住居機能の導入の検討

既存の港湾荷役や景観に支障のない形で、臨海部の遊休地を有効活用した住居機能の導入のあり方について検討する。

#### 3) クリエイティブビジネスの振興と集積

設計やデザインなど、門司港のまちづくりの方向性に合致したクリエイティブビジネスの振興と集積を図るため、それらの活動拠点に適した不動産物件情報について、積極的にPRする仕組みを検討する。

#### 4) 住宅物件情報の収集・発信

門司港への移住を希望する人々に対し、地区内の住宅や宅地など、不動産物件に関する情報の収集や発信等を行う民間の取り組みに対し、支援を検討する。

#### 5) 転入希望者への相談窓口の設置

門司港レトロ地区への転入や活動拠点づくりを希望する人に対して、総合的な相談を受け、サポートする窓口を設置する。

施策の体系(その1)



## 施策の体系(その2)

